

— 1. 支部長挨拶 —

日本気象学会北海道支部 支部長 長谷川 洋平

会員の皆様には日頃より日本気象学会北海道支部の事業運営にご協力をいただき、お礼申し上げます。

この8月に第32期北海道支部長を仰せつかりました、札幌管区気象台長の長谷川と申します。北海道支部会員の皆様からのご支援、ご協力をいただきながら、北海道支部の発展に努める所存ですので、どうぞよろしく願いいたします。

今年度は、新型コロナウイルス感染症により私たちのこれまでの生活が大きく変わり、当支部においても様々な制約がある中で活動せざるを得ない状況となっております。第1回目の研究発表会もやむなく中止するなど、会員の皆様にはご不便をおかけしていますが、何とぞ理解のほどよろしく願いいたします。



さて、我が国では古来多くの自然災害に見舞われてきており、近年も甚大な被害をもたらす気象災害が後を絶ちません。昨年は「令和元年東日本台風」によって東日本を中心に記録的な大雨、暴風、高波、高潮となり、広い範囲で河川の氾濫が相次いだほか、土砂災害や浸水害が発生しました。本年の「令和2年7月豪雨」では、九州をはじめ西日本から東日本、東北地方までの広い範囲で記録的な大雨となつて大きな被害が発生、多数の尊い命が失われる状況となっております。

一方、北海道ではここ数年は顕著な気象災害は発生していませんが、このような災害をもたらす極端な気象現象の増加は地球温暖化による気候変動がその背景にあると考えられており、決して油断できる状況ではありません。気象や気候の精緻な観測と解析をもとに気象現象のメカニズム解明や予測精度向上を進めると共に、気象災害に対する国民の理解促進を深めることで、最終的に自然災害を軽減して国民の安全を確保することが、これまで以上に重要になってきています。

このような観点から日本気象学会の役割はますます大きくなっていくものと思いますが、北海道支部といたしましても学会員の活動を通じて社会への貢献をしていきたいと考えております。今年度は新型コロナウイルス感染症の拡大防止を踏まえ、インターネットを活用したオンラインによる講座や発表会を企画するなど、様々な工夫を凝らして支部活動を進めていく予定です。

最後になりますが、会員の皆様には今後ますますのご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げ、私からの挨拶といたします。